

# 双塔



カトリック新潟教会 2015年 4月

No.323

## 我が主を たたえよう

助任司祭 ナジ・エデルベルトゥス

鳥達の歌声に誘われて朝を迎える季節が来ました。春が来て日の出は早くそれに気づいた鳥達も目覚め時計より早くお互いに呼び掛けたり、歌ったりします。「朝だよ」  
緑世界へそう云う喜びある意味合いを含めている様な音が聞こえます。明るい、温かい、より広い範囲で軽く動く事は鳥達も人間と同じく自然に感じ取る事ができると思います。「あかつきと共にめざめ、新しい季節や神の美しさを仰ぎみよう」という詩編作者（典礼聖歌2番）の喜びに気づかせてくれる鳥達の声です。

典礼の面でも新しい小羊という歌も頻繁に聞くことができ、洗礼志願者を教会の一員に加えることによって教会が若返るといふ祈りをも聞くことができます。新しい小羊であるイエス様による御父の恵みは今年も体験された方々がありますように。

四旬節前に一人の赤ちゃんが臨終洗礼を受けました。母親は復活祭に洗礼を受けさせる予定でしたが、病気でせめて神の子になる希望で洗礼を授けました。涙のうちに臨終洗礼に立ち会い、両親は子供の回復を体験しました。それを聞いて涙のうちに種を蒔く（祈る）人は喜びのうちに刈り取るという詩編をふと思い出しました。打ち砕かれた心を癒すため、父の右の座にあって私達のためにとりなして下さるイエス様が彼らの祈りを聞き入れてくださると受け止めました。

もうだめと思ったらイエス様が別の事を示して下さる出来事は聖書の中でよく見られます。大祭司カイアファの館の前で、イエスの弟子だとわかったら殺されると思ったペトロはイエス様を否んでその裏切りの行為の重さを感じて泣きました。イエス様が彼を癒して下さる場面は湖での朝食の時でした。もう二度と会えなくてお詫びすることもできないと思ったペトロはイエス様と出会って彼に忠実さを新たに示す事は解放感や喜び満たされるに違いありません。すべてが無駄に終わり、忘れるために町を出てエマオへ向かった二人の弟子達は復活されたイエス様と出会うサプライズを体験し、町へ戻った。もう終わりだと思ったら「主を見た」と言う他の弟子達の話に耳を貸さず怒り心頭に発したトマスも彼と出会って「我が主よ」という信仰告白の段階までに至りました。疲れはてたトマスに癒しの恵みが与えられ、イエス様への信仰が芽生えました。

諦めず神様の命じた通りに体の節制を行って、洗礼の約束を更新された信者にも魂の癒しも与えられます。信仰の創始者と完成者であるイエス様（ヘブライ 12・1）は教会の信仰を顧みられ、私達一人ひとりに神との和解や教会との一致に必要な恵みを取り成して下さると信じます。ガリラヤの湖の畔で火をおこして漁に出た弟子達を迎えられたイエス様は、変わらない温かさで御自分の方へ進む人を迎えられと思います。

今年も神の家で私達は聖トマスと共に次の詩編「我が主をたたえよう、声を合わせてたたえよう」。たまに歌いましょう……。



## ■四旬節第1主日 《新潟市内 合同洗礼志願式》 ----- 2月22日(日) -----

2月最後の日曜日。新潟教区で初めての試み「合同洗礼志願式」が菊地司教様司式のミサの中で行われ、復活祭に洗礼を受ける5人の洗礼志願者(新津、青山各1人、新潟3人)とともに、聖堂には約100人が集まった。福音朗読後、「洗礼志願式」にあたり司教様は「洗礼志願式を司教座聖堂で行うのは普遍教会の一員になるという意識をもってもらうためです」と話された。ミサ後はセンター1階で茶話会が開かれ、司教様を囲んで笑顔の花が咲いていた。

## ■四旬節第3主日 《黙想会》----- 3月7日(土)15:00~、8日(日)9:00~ -----

「信仰を深めて」のテーマで、山頭泰種神父様(亀田教会主任司祭)の指導で行われた。初日の講話で「以前の教会は人間の原罪に始まり、罪についての考察をしてきたが、最近『福音』という言葉で語ることが多くなった」と始められ、「社会の片隅に追いやられ苦しむ人々にとって、心の琴線に触れる出会いをもたらす他者はキリスト以外にはないと確信したに違いない。キリストこそが『喜びをもたらす知らせ(福音)』であった」と話された。

最後に、「After you」(お先にどうぞ)が神父様の理想であり、「苦しみを感謝と喜びに変える練習をすると、毎日が楽しくなる」と呼びかけられ、「片道切符の人生、今を喜ばないでどうしますか」と大きな声で笑われると、聖堂内は温かな空気に包まれた。2日目は、講話の後、山頭神父様の司式のミサ中で「洗礼志願者の典礼」が行われた。

## ■四旬節第3主日 《青年たちによる 震災のための祈り》

----- 3月8日(日)13:00~ -----

青年達企画の「祈りの会」が聖堂で行われ、世代や国籍を超えた多彩な集まりとなった。仙台教区サポートセンターで活動経験の青年が、現地で活動を続けるシスター長谷川(聖パウロ女子修道会)の手紙を代読後、小グループで分かち合いを行い、黙想し、歌い、全員で祈った!担当司祭の坂本師は「集まったことを前向きに捉えよう」と話され、「これで終わらせたくない」の青年の言葉が印象的であった。

## ■四旬節 《主にささげる24時間》

----- 3月13日(金)19:00~20:00-----

全世界の教会で、3月13日から14日の間に「主にささげる24時間」として、聖体礼拝やゆるしの秘跡を含む特別な祈りの時を設けるように、との教皇様の呼びかけに応え、新潟教会では司教様と司祭団の共同司式で晩の祈りと聖体礼拝が行われ、近隣小教区からも含め30名以上が参加した。